

グリーティング

「お祈りは1日5回です。豚肉はダメです。」

たどたどしい英語で話すのはAODA、21歳のイスラム教徒の青年です。

この夏、茶畑の手伝いにフランスからやってきました。おじいさんの代にモロッコからフランスに移住、今はパリ近郊に両親と暮らしています。子供の頃から日本のまんがが大好きで、人の世の善悪はまんがから学んだとか。

ちなみにAODAの呼称は『NARUTO-ナルト-』というまんがの登場人物からもらったそうです。「アオちゃ〜ん」「アオダーツ」と呼ばれると「は〜い」といい返事、まじめな仕事ぶりは評判上々です。

ざるそばもペロリと食べてますます日本通になるAODA。

ものすごく暑い夏でしたが、遠来の助っ人とのいい夏でもありました。

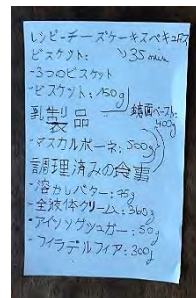
S. K



カーリーヘアが良く似合う、長身のAODA



東京でイメージチェンジすっかりシティボーイです



ケーキを焼いてくれました。手書きのレシピが残っています

技工情報

◎CAD/CAMインレーの窩洞形成について

CAD/CAMインレーと、メタル(金属)インレーとでは、窩洞形成に対する考え方が若干異なります。



メタルインレーと違い窩洞形成の違いは全体的に丸みを帯びたフォルムで線角のラウンド化になります。

これは、使用する材料がメタル(金属)と異なり、基本的に脆性材料となり、破折防止の観点からなります。

CAD/CAM応用インレーの窩洞形成に関する注意事項

形成手順	器具、ポイントの種類、材料など	詳細、注意事項など
1. 咬合面 (図10)	う蝕の状態に合わせて窩洞形成を行う《206CRもしくは207CR》	<ul style="list-style-type: none"> ・う蝕、修復処置の再治療(インレー脱離、CR処置、二次う蝕)に起因することが多い⇒ある程度の窩洞外形がすでに設定されている ・窩壁と窩底を構成する線角は鋭角化せず丸みを帯びたフォルムとする ・デジタル時代のインレーでは、旧来の金属インレーとは異なり予防拡大やMI(minimal intervention)概念のアプローチが異なる
2. 隣接面窩洞(ボックス)形成 (図11)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンレータイプ(う蝕の広がりや残存歯質が菲薄な場合) ・基本的にボックス式とし、スライスカットやフレアー形成を行わない(図7参照)《202RDもしくは301RD》《I14もしくはSF114》 	<ul style="list-style-type: none"> ・線角・点角を鋭縁化せず、丸みを帯びたフォルムとする(応力集中を避ける) ・歯肉側マージンはディープシャンファーとする(丸みをもたせる) ・隣在歯を可及的に傷つけない ・歯間乳頭を傷つけない ・ボックス窩洞の深さや大きさにより、ストレート形態のポイント(I14、SF114)を用いる
3. 窩洞形態の評価 (図12~15)	<p>即時重合レジンでプロビジョナルレストレーション(暫間インレー)を製作</p> <p>形成量確認用インストルメント(ブレップシュアII、モリムラ)</p> <p>咬合紙</p>	<p>暫間インレーを製作することで、窩洞形態の不備、アンダーカットの有無、隣接面窩洞形態などを確認する⇒暫間インレーの咬合面部、隣接面ボックス部の厚みを計測する(ノギス・メジャリングデバイス)</p> <p>ブレップシュアIIを用いて窩洞の深さ・幅を確認する</p> <p>咬合紙で印記した咬合接触部位と窩洞外形との位置関係をチェックする</p>
4. 仕上げ+研磨 (図16)	《206CR・SF206CRもしくは207CR・SF207CR》《202RD・F202RD、もしくは301RD・F301RD》《I14、SF114》	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に移行的かつ滑らかに全周をつなぐ ・アンダーカットは必ず修正する

CAD/CAM応用インレーの窩洞形成に使用するポイント類



CAD/CAMインレーの窩洞形成に使用するポイント類



ポイント先端の形状が丸みを帯びています。